

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	認知症高齢者グループホームふれあい
(ユニット名)	ふれあい
所在地 (県・市町村名)	宮城県川崎町
記入者名 (管理者)	清塚 富貴子
記入日	平成 20 年 10 月 22 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	まだまだ隣近所の方々と交流がうまくとれていませんが、少しずつ理解を示してくださる方が出ています。地域性から野菜など作っている方も多いので、ふれあいの畑などの指導やお手伝いを気軽にお願いできる様働きかけていきたい。その事により日常のおつきあいが出来る様になると思われます。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	昨年より地域との行事や保育所・中学校の行事など参加できるようになりましたが、まだ行事だけです。横断歩道も出来たので、隣近所に散歩等、でかけられる時間を持つよう取り組んでいきたいと思っています。現在何人かの方と散歩に出掛けましたが、まだまだ地域の方の受け入れが不十分に思われました。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	川崎町の今年の取り組みとして、家族のための認知症介護教室が、開催され、管理者が講師として派遣されています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的は全体会議などで伝え取り組む様にしていきます。結果については、ミーティングや会議に報告し改善に向けて検討しています。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回の推進会議には昨年の評価より家族が出席していない。との指導を受け推進会議で報告した所、今年より家族も出席していただけるようになりました。また、年2回の家族会での話し合いの結果も推進会議にて報告し、そこでの意見をサービスに活かしています。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	気軽に足を運んでいただけていますし、事業を行っていく上で生じる運営やサービスの課題に対しても相談できる体制が出来ています。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見が必要なケースは今までなかったが同法人のみどりの園では活用している方がいるため勉強する機会をもてています。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	川崎町高齢者虐待防止ネットワーク推進委員のため、学ぶ機会を多くもっています。その後全体会議やミーティングを利用しながら取り組んでいます。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	○	面接時安易に勤めることなく、仕事内容が向かないような場合は断ることが出来る様にしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外で開催される研修会には積極的に参加してもらっています。また、認知症実践者研修など必要とされる知識の習得のための研修会も計画的に受けていただいています。今年は町の家族のための認知症介護教室などにも積極的に参加し、その後法人でも講師として蓬田先生をお呼びするなどの機会を作っています。研修報告は月一回の全体	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互評価での施設訪問などを通してサービスの質の向上を目指しています。グループホーム連絡協議会に入っているため、研修会や交流会などには積極的に参加しています。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩場所の確保がまだ出来ていない。	○ 現在事務所の半分を休憩室として整備予定です。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は特養の施設長のため、なかなか現場には来て頂けません。資格取得が評価の対象になりました。	○ 今後も職員の向上心を運営者にアピールしていきたいとおもっています。
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	サービスの利用について話があった場合は、直接ご本人と面談し心身の状態や本人の思いを聞き、利用のときに戸惑いが少なくなるよう支援しています。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	これまでの家族の苦労やサービス利用の状況など経緯を聴く機会をつくり、受け止める努力をしています。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所の相談は川崎町地域包括支援センターの担当者やケアマネージャー等と連携し見極めています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人、家族が事業所を見学したり、スタッフが自宅訪問したりしながら利用していただいています。また、利用開始時は家族の面会や関わっていた方などにひんかいいに来ていただき、安心感を持っていただけるよう支援しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の大先輩である事を職員全員で共有しています。出来る事は本人を尊重し力を引き出せるよう支援しています。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の状況変化時は家族と一緒に支援方法を話し合い、協力いただける様声掛けしています。季節ごとの行事には参加をつのり、また、誕生会にはメッセージカードを書きいただき、家族が参加できるときにはよんでいただき、出席できない方場合は職員が読んであげています。面会時は本人の情報を得られるよう心がけています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時は家族と一緒に過ごす時間を大切にしています。遠方からの家族の面会には一緒に部屋に泊まっていただける様勧めしています。行事等にも参加していただき楽しいひと時を過ごしていただいています。これらの事によりより良い家族関係を築いていただけるよう支援しています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅にいる頃から利用している美容室や理容室・かかりつけ病院など一人一人の生活習慣を尊重しています。また、昔の友人の面会も自由にいただけるよう声掛けし、関係が途切れないよう支援に努めています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関わりを良好に保つため、常に一人ひとりに気配り・目配りを心がけています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用が終了しても、お手紙や広報誌を送ったり、その後の支援の相談に乗ったりし、最後まで関わり続けるように心がけています。入院による退所の方に対しては、時々病院に顔を出し、ドクターやナースに状況を知らせてもらっています。退所後のサービス利用についても相談に乗っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方を大切にし、意向の把握に努めています。意思疎通が困難な方には、家族や関係者から面会を通して情報を得られるようにしています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面会時は本人の情報を得られるように努め、本人の生活歴を把握しています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員は毎日の記録に目を通し、その日の心身状態を把握し、一人ひとりに合った過ごし方をしていただけるよう職員間で情報を共有し手います。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	意思疎通のできる利用者については、本人の意見を取り入れ、フロア会議で全職員で話し合い、状態が変化したときや、問題行動があったときは随時話し合い介護計画に反映させています。また、家族には面会時や電話等で要望を聞きだしています。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人に変化があった場合は本人・家族。職員間で話し合い、見直しを行っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日業務日誌・夜間日誌を個別に記録し、情報の共有をし介護計画の見直しに活かしています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外出・外泊は本人・家族の希望を取り入れています。また、第二みどりの園の看護師による支援設けています。身体状態が思わしくない利用者に対してはベット・エアマット・車椅子等を借りる事が出来安心してグループホームで生活を続けていけるよう支援しています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者が安心して生活していただけるよう、民生委員や地区区長との意見交換会する機会がもたれています。また、地区の消防団長が自動非常通報先になっていただいています。また、今年は中学生のじゃが芋堀りや掃除・七夕作りなどもしていただきました。家族会からは、囲碁や将棋のボランティア要請など町の方にも働きかけてくださっています。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	家族会に包括支援センターの職員も参加していただき、必要なサービスなどのアドバイスを頂くなど、常に足を運んでいただき、情報の共有に取り組んでいます。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に包括支援センターの職員が参加していて、川崎町での独自のサービスや支援などの情報交換や協力体制が出来ています。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用前からの本人のかかりつけ医を継続し、本人の訴えがあった時や定期検査などかかりつけ医にお願いしています。また、急変時や夜間などは川崎町の国保病院が協力してくださっています。月一回の訪問診療、必要時の往診なども対応してくださっていますので、本人・家族・職員とも安心感もっています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>国保川崎病院の医師が少なくなったことから以前のような体制が作りづらくなってきていますが、協力体制は継続できているので、今後もその都度協力いただける様働きかけていきたいとおもっています。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>重度化した利用者が多くなっていることから、かかりつけ医師とは蜜に今後も情報を伝えて行き、支援を継続して行きたい。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	○	家にいる時と出掛けるときとは雰囲気も違ってきます。背広を着たり、和服を着たり、一番の良いものを着ていただく事により、メリハリを持っていただき生活に変化をつけていきたいと思っています。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	○	お手伝い出来る方も少数です。作って食べさせてもらうのがあたりまえといった方も少なくありません。本人の能力を引き出せるような昔ながらの献立も多く取り組んでいきたいと思っています。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンをつかみ、時間を見ながら声がけ誘導しています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の健康状態を確認し、一人ひとりの希望やタイミングにあわせて入浴を楽しんでいただいておりますが、どうしても重度化した利用者が増えている事から職員の手がある日中に入浴していただくようになっていきます。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	眠れない利用者には、話し相手になり、お茶を勧めたり、無理に寝ていただかないようにしています。日中はなるべく起きていただけるような配慮をし、生活のリズムを整えられるよう支援しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	誕生会には本人の希望を食事に取り入れています。家族も招待し一緒に祝福していただいております。季節事の行事も初夏にはさくらんぼ狩り、秋にはぶどう狩りと家族も一緒に出掛ける楽しみをつくり気晴らしの支援をしています。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の出来る利用者は、家族の了解を得て管理していただいております。管理ができない利用者には、買い物など外出して自分でお金を使えるような支援体制を整えています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には外に散歩に出掛け栗拾いをしたり、ドライブに行ったり、希望にあわせて戸外に出掛けられるよう支援しています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人の希望により、家族にお話し、家族と共に一泊旅行に行ったり、ドライブしたり、出掛けられる機会をつくり、支援しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、自由に電話を使う事が出来ています。自分で掛けることができない方にはつないでやっていますし、取次ぎも快く取り次いでいます。手紙のやり取りも自由ですが、自分で書く事は出来ないようです。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会はいつでもできるようにしていますが、夜遅くの面会をご遠慮してもらっています。面会の場所は本人の居室を利用し、気兼ねなく過ごしていただけるよう配慮しています。面会時ご馳走を持参され、居室で楽しいひと時を過ごされています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は開所以来実施していません。今後も身体拘束をしないケアに取り組んでいきます。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は玄関に鍵は掛けますが、日中は鍵は掛けていません。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	夜は2時間毎に巡回を行い、本人のプライバシーに配慮しながら利用者の様子を把握し、安全に配慮しています。日中は居室で過ごしたい方、散歩をしたい方と様々ですが、プライバシーにはいりよしながら利用者の様子を把握し、安全に配慮しています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	刃物類は見えないところに収納し、使用しない時は、ロックを掛けています。危険なもの棚などを利用し、利用者の手の届かないところや見えないところに保管し鍵をかけています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒の危険のある利用者は常に見守りや手引き歩行を怠らないようにしています。行方不明や火災などに対しては消防や区長、何よりドリームの郷としての連絡網により協力体制が整っています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	ヒヤリハットの段階で報告書を提出し、再発防止の話し合いを行い、事故につながらないよう全員で情報の共有をしています。上級救命講習会に参加することにより応急手当の知識を習得できる機会を、作っています。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	自動通報装置システムを導入し、地域住民や地元の消防団に協力が得られるように働きかけています。防災訓練を実施し利用者や職員の防災意識の高揚に努めています。隣接した施設と合同の連絡網が整っていて、災害時に活用できる体制作りをしています。利用者個人個人には、リュックを準備し必要なものを入れていきます	○	個人個人の必要な物のリストを作り、すぐ持ち出せるような場所の確保を早めに検討していきたい。また、地域住民との防災訓練も計画に入れていけるよう取り組みたい。
72 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	利用者の起こり得るリスクについて、家族会で説明し、文章で送付しています。		
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルチェックを行い変化が見られたら速やかに所長に報告し、指示を仰ぎ情報を共有し、家族に連絡し対応に結びつけています。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	目的や副作用・用法や容量については、薬の説明をよく読み、振り分けし、理解しています。また、服用による症状の変化の確認にも努めています。かかりつけ医師と連携を取れているため、分からない事や不信に思った事などはその都度聴く事が出来る体制が出来ています。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	献立は野菜類を多くし、水分補給も声掛けし多めに取っていただき、お手伝いや散歩などで身体を動かす働きかけに努めています。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	就寝前は、義歯を外し、うがいをし義歯の洗浄剤につけています。食後はお茶を飲んでいただき口腔内の残渣が残らないようにしています。お茶を飲む事が出来ない利用者には、歯ブラシを使い毎食後口腔内を掃除し清潔保持に努めています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー制限のある利用者には医師の指示を受け実践しています。大きさや硬さを考えて調理しています。ミキサー食の方もいるので単品毎ミキサーにかけ、最初はスプーンでその後はらくらくゴックンという容器で食べていただいています。介助を要する方に対しては、必ず箸を持っていただき食べる雰囲気を作っています。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザの予防接種は家族の承諾を頂実施しています。感染症はマニュアルを作成したり、県からの感染症情報を利用し全員で理解し対応しています。食事前はアルコール消毒をしていただく事を日課にしています。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	夏季期間は生ものの使用を避け、良く火を通してあります。調理用具は使用後良く洗浄しハイターで消毒しています。身体状態のおもわしくない方に対しては、煮沸消毒し感染防止に努めています。食材の納品時は必ずチェックし新鮮な材料を確保しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前には草花を植えたり、周りに畑を作り季節事の野菜を作っています。また、玄関付近にはベンチを置き誰でもが座って話ができるような工夫もしています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や廊下には、利用者の写真や行事などの写真・家族との写真を飾ったり、利用者の作品を飾ったりしています。玄関や食堂には季節の花を職員の家から持ってきて飾ったり、コンビにから二ヶ月に一回花束が届くので飾り、季節感を取り入れています。畑には季節事の作物を作り、利用者と一緒に収穫の喜びを満喫しています。	○	食堂に朝すす 日が差しまぶしくて目を細めている利用者もいます。カーテンなどの利用を検討していきたいとおもっています。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	茶の間でコタツに入り昼寝をしたり、廊下の隅に長いすを置き、隠れた談笑の場となっているようです。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人と家族で相談し、本人が使い慣れた物や好みの物を活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしています。利用者の中には仏壇も持ってきていて、毎麻ご飯とお茶をお供えして、自宅にいる時と同じようにしています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	外気温と大きな差がないようこまめに温度調整を行っています。冬場は加湿器やバスタオルを利用し湿度を保てるようにしています。夏場は今年はあまり暑さを感じる事がなかったのが良かったのですが、クーラーがないため暑さ対策が不十分です。	○	冬場は床暖房でとても暖かく快適ですが、夏はクーラーがないので夏ばての対応に頭を悩ませています。クーラーの設置を共同スペースだけでも検討していきたいと思っています。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すりの設置があり、浴室・トイレにも手すりが設置され安全で自立した生活が送れるように工夫しています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりの出来る事を大切にし、日々の生活の中で混乱する事の無いような支援に努めています。トイレは分かるよう大きく書き、居室には名前と写真をはって一目で分かるように工夫しています。洗濯たみなどは、利用者の名前の札を作り、職員と一緒に行う事により間違いがなく利用者ごとに渡せるように工夫しています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	天気の良い日は外のベンチで日向ぼっこをし利用者間のコミュニケーションが取れるような活用をしています。テラスには洗濯物を干しお手伝いをいただいています。畑には季節事の根菜類を作り成長や収穫の楽しみを味わっています。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている		①ほぼ全ての職員が
		○	②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

今年の夏祭りは、地域密着型サービスを念頭に、地区互助会の協力で準備から後片付け、出店と一緒に実施する事が出来ました。また、地元中学生の川崎ソーランで会場を盛り上げていただけました。中学校の先生と生徒の協力で夏祭りに向けてのボランティア活動として、七夕作り、窓拭き、じゃがいも堀り、夏祭り会場設営の為に備品運び等手伝っていただき、利用者となれあいを多く持つ事が出来ました。敬老会では、利用者全員が一番良い服装で(着物の方や背広の方等)めいっばいのおしゃれをし、出席しました。服選びは職員も一緒にお手伝いし、当日は朝早くから準備に笑顔がはじけていました。季節事の行事は家族の協力を頂、春は船岡の桜を電車に乗り車窓から見学し、回転寿司での昼食を楽しみ、初夏は山形にさくらんぼ狩り、夏祭り、敬老会、ぶどう狩りでは、各自選んで食べた昼食、クリスマス会、餅つき、ひな祭り会と家族と楽しいひと時を過ごしていただいています。また、昔ながらの草もちや柏餅づくり、らっきょ漬け等自信满满作ってくださっています。今年度より家族会を立ち上げ、4月と10月に実施する事が出来ました。普段疑問に思っている事や不安など家族・職員と共有する事が出来ました。その中で一部の家族よりふれあいは自分の家族の様に思っているとの言葉を聴かせていただきました。10月の家族会には川崎町地域包括支援センターの職員にも出席していただきました。多くの職員にも参加していただき、活発な意見交換が出来ました。家族会の報告は推進会議の席でも報告しています。毎月の請求にはケース記録も一緒に送り状況の把握に努めていただいています。記録により「おばあちゃんの顔が見える」とか「母親の大事な記録です。大切にしています」といった言葉も聴かれています。広報誌も毎月送り情報の共有をお願いしています。また、今年は畑にも力を入れ、ヘルパーステーションの職員に協力いただきながら、季節事に植え替え収穫を楽しんでいます。苗は家族や職員が提供して下さっています。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	認知症対応型グループホームふれあい
(ユニット名)	ほのぼの
所在地 (県・市町村名)	宮城県川崎町
記入者名 (管理者)	清塚 富貴子
記入日	平成 20 年 10 月 22日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	まだまだ隣近所の方々との交流がうまくとれていませんが、少しずつ理解を示してくださる方が出ています。地域性から野菜など作っている方も多いため、ふれあいの畑などの指導やお手伝いを気軽にお願いできる様働きかけていきたい。その事により日常のおつきあいが出来る様になると思われます。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	昨年より地域との行事や保育所・中学校の行事など参加できるようになりましたが、まだ行事だけです。横断歩道も出来たので、隣近所に散歩等、でかけられる時間を持つよう取り組んでいきたいと思っています。現在何人かの方と散歩に出掛けましたが、まだまだ地域の方の受け入れが不十分に思われました。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	川崎町の今年の取り組みとして、家族のための認知症介護教室が開催され、管理者が講師として派遣されています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的は全体会議などで伝え取り組む様にしていきます。結果については、ミーティングや会議に報告し改善に向けて検討しています。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回の推進会議には昨年の評価より家族が出席していない。との指導を受け推進会議で報告した所、今年より家族も出席していただけるようになりました。また、年2回の家族会での話し合いの結果も推進会議にて報告し、そこでの意見をサービスに活かしています。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	気軽に足を運んでいただけていますし、事業を行っていく上で生じる運営やサービスの課題に対しても相談できる体制が出来ています。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見が必要なケースは今までなかったが同法人のみどりの園では活用している方がいるため勉強する機会をもっています。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	川崎町高齢者虐待防止ネットワーク推進委員のため、学ぶ機会を多くもっています。その後全体会議やミーティングを利用しながら取り組んでいます。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	○	面接時安易に勤めることなく、仕事内容が向かないような場合は断ることが出来る様にしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内外で開催される研修会には積極的に参加してもらっています。また、認知症実践者研修など必要とされる知識の習得のための研修会も計画的に受けていただいています。今年は町の家族のための認知症介護教室などにも積極的に参加し、その後法人でも講師として蓬田先生をお呼びするなどの機会を作っています。研修報告は月一回の全体	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	相互評価での施設訪問などを通してサービスの質の向上を目指しています。グループホーム連絡協議会に入っているため、研修会や交流会などには積極的に参加しています。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩場所の確保がまだ出来ていない。	○ 現在事務所の半分を休憩室として整備予定です。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は特養の施設長のため、なかなか現場には来て頂けません。資格取得が評価の対象になりました。	○ 今後も職員の向上心を運営者にアピールしていきたいとおもっています。
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	サービスの利用について話があった場合は、直接ご本人と面談し心身の状態や本人の思いを聞き、利用のときに戸惑いが少なくなるよう支援しています。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	これまでの家族の苦労やサービス利用の状況など経緯を聴く機会をつくり、受け止める努力をしています。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所の相談は川崎町地域包括支援センターの担当者やケアマネージャー等と連携し見極めています。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人、家族が事業所を見学したり、スタッフが自宅訪問したりしながら利用していただいています。また、利用開始時は家族の面会や関わっていた方などにひんかいいに来ていただき、安心感を持っていただけるよう支援しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の大先輩である事を職員全員で共有しています。出来る事は本人を尊重し力を引き出せるよう支援しています。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の状況変化時は家族と一緒に支援方法を話し合い、協力いただける様声掛けしています。季節ごとの行事には参加をつのり、また、誕生会にはメッセージカードを書きいただき、家族が参加できるときにはよんでいただき、出席できない方場合は職員が読んであげています。面会時は本人の情報を得られるよう心がけています。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時は家族と一緒に過ごす時間を大切にしています。遠方からの家族の面会には一緒に部屋に泊まっていただける様勧めしています。行事等にも参加していただき楽しいひと時を過ごしていただいています。これらの事によりより良い家族関係を築いていただけるよう支援しています。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅にいる頃から利用している美容室や理容室・かかりつけ病院など一人一人の生活習慣を尊重しています。また、昔の友人の面会も自由にいただけるよう声掛けし、関係が途切れないよう支援に努めています。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関わりを良好に保つため、常に一人ひとりに気配り・目配りを心がけています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用が終了しても、お手紙や広報誌を送ったり、その後の支援の相談に乗ったりし、最後まで関わりしていけるように心がけています。入院による退所の方に対しては、時々病院に顔を出し、ドクターやナースに状況を知らせてもらっています。退所後のサービス利用についても相談に乗っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや暮らし方を大切にし、意向の把握に努めています。意思疎通が困難な方には、家族や関係者から面会を通して情報を得られるようにしています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	面会時は本人の情報を得られるように努め、本人の生活歴を把握しています。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	職員は毎日の記録に目を通し、その日の心身状態を把握し、一人ひとりに合った過ごし方をしていただけるよう職員間で情報を共有し手います。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	意思疎通のできる利用者については、本人の意見を取り入れ、フロア会議で全職員で話し合い、状態が変化したときや、問題行動があったときは随時話し合い介護計画に反映させています。また、家族には面会時や電話等で要望を聞きだしています。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	本人に変化があった場合は本人・家族。職員間で話し合い、見直しを行っています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日業務日誌・夜間日誌を個別に記録し、情報の共有をし介護計画の見直しに活かしています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	外出・外泊は本人・家族の希望を取り入れています。また、第二みどりの園の看護師による支援設けています。身体状態が思わしくない利用者に対してはベット・エアマット・車椅子等を借りる事が出来安心してグループホームで生活を続けていけるよう支援しています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	利用者が安心して生活していただけるよう、民生委員や地区区長との意見交換会する機会がもたれています。また、地区の消防団長が自動非常通報先になっていただいています。また、今年は中学生のじゃが芋堀りや掃除・七夕作りなどもしていただきました。家族会からは、囲碁や将棋のボランティア要請など町の方にも働きかけてくださっています。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	家族会に包括支援センターの職員も参加していただき、必要なサービスなどのアドバイスを頂くなど、常に足を運んでいただき、情報の共有に取り組んでいます。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に包括支援センターの職員が参加していて、川崎町での独自のサービスや支援などの情報交換や協力体制が出来ています。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用前からの本人のかかりつけ医を継続し、本人の訴えがあった時や定期検査などかかりつけ医にお願いしています。また、急変時や夜間などは川崎町の国保病院が協力してくださっています。月一回の訪問診療、必要時の往診なども対応してくださっていますので、本人・家族・職員とも安心感もっています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>国保川崎病院の医師が少なくなったことから以前のような体制が作りづらくなってきていますが、協力体制は継続できているので、今後もその都度協力いただける様働きかけていきたいとおもっています。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>重度化した利用者が多くなっていることから、かかりつけ医師とは蜜に今後も情報を伝えて行き、支援を継続して行きたい。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりに合った言葉かけや対応をこころがけています。家族の方より方言で話しかけてくださいと言われていた利用者には、そのように対応しています。町の住民検診でレントゲンを受けるときに、家族は外で服を脱がせようとした事に対して「中に入ってから脱がせます」と言われ、人として対応してくれている事に感謝します。との言葉がありました。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	コミュニケーションにより、思いや希望を表せるように働きかけ、しっかり受け止め、理解し納得できるよう説明し、本人が納得しながら決められる暮らしが出来る様に支援しています。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを大切に、利用者の希望に沿った支援を心がけています。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	入所前から利用している美容室や理容室には、本人の訴えがあったときに家族や職員がつれていっています。2～3ヶ月に一回のペースで理容・美容の方に来援していただき対応してもらっています。イベントや外出には、よそ行きの服装や化粧をしたりとおしゃれが出来る様に支援しています。	○ 家にいる時と出掛けるときでは雰囲気も違ってきます。背広を着たり、和服を着たり、一番の良いものを着ていただく事により、メリハリを持っていただき生活に変化をつけていきたいと思っています。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や簡単な調理(目玉焼き・ギョーザ包み等)のお手伝いをしてもらっています。野菜切りや食器洗い・拭きなど出来る利用者にはお手伝いをしていただいています。特に女性の方はとても上手にでき、それを自慢にしているようです。	○ お手伝い出来る方も少数です。作って食べさせてもらうのがあたりまえといった方も少なくありません。本人の能力を引き出せるような昔ながらの献立も多く取り組んでいきたいと思っています。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲酒・喫煙者は現在いませんが、家族と出掛けたときには召し上がっていらっしゃるようです。おやつや飲み物などは、利用者の好みや希望を取り入れて日常的に楽しめるよう支援しています。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの排泄パターンをつかみ、時間を見ながら声がけ誘導しています。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の健康状態を確認し、一人ひとりの希望やタイミングにあわせて入浴を楽しんでいただいておりますが、どうしても重度化した利用者が増えている事から職員の手がある日中に入浴していただくようになっていきます。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	眠れない利用者には、話し相手になり、お茶を勧めたり、無理に寝ていただかないようにしています。日中はなるべく起きていただけるような配慮をし、生活のリズムを整えられるよう支援しています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	誕生会には本人の希望を食事に取り入れています。家族も招待し一緒に祝福していただいております。季節事の行事も初夏にはさくらんぼ狩り、秋にはぶどう狩りと家族も一緒に出掛ける楽しみをつくり気晴らしの支援をしています。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の出来る利用者は、家族の了解を得て管理していただいております。管理ができない利用者には、買い物など外出して自分でお金を使えるような支援体制を整えています。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には外に散歩に出掛け栗拾いをしたり、ドライブに行ったり、希望にあわせて戸外に出掛けられるよう支援しています。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人の希望により、家族にお話し、家族と共に一泊旅行に行ったり、ドライブしたり、出掛けられる機会をつくり、支援しています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、自由に電話を使う事が出来ています。自分で掛けることができない方にはつないでやっていますし、取次ぎも快く取り次いでいます。手紙のやり取りも自由ですが、自分で書く事は出来ないようです。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会はいつでもできるようにしていますが、夜遅くの面会をご遠慮してもらっています。面会の場所は本人の居室を利用し、気兼ねなく過ごしていただけるよう配慮しています。面会時ご馳走を持参され、居室で楽しいひと時を過ごされています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は開所以来実施していません。今後も身体拘束をしないケアに取り組んでいきます。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は玄関に鍵は掛けますが、日中は鍵は掛けていません。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	夜は2時間毎に巡回を行い、本人のプライバシーに配慮しながら利用者の様子を把握し、安全に配慮しています。日中は居室で過ごしたい方、散歩をしたい方と様々ですが、プライバシーにはいりよしながら利用者の様子を把握し、安全に配慮しています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	刃物類は見えないところに収納し、使用しない時は、ロックを掛けています。危険なもの棚などを利用し、利用者の手の届かないところや見えないところに保管し鍵をかけています。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒の危険のある利用者は常に見守りや手引き歩行を怠らないようにしています。行方不明や火災などに対しては消防や区長、何よりドリームの郷としての連絡網により協力体制が整っています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	ヒヤリハットの段階で報告書を提出し、再発防止の話し合いを行い、事故につながらないよう全員で情報の共有をしています。上級救命講習会に参加することにより応急手当の知識を習得できる機会を、作っています。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	自動通報装置システムを導入し、地域住民や地元の消防団に協力が得られるように働きかけています。防災訓練を実施し利用者や職員の防災意識の高揚に努めています。隣接した施設と合同の連絡網が整っていて、災害時に活用できる体制作りをしています。利用者個人個人には、リュックを準備し必要なものを入れていきます	○	個人個人の必要な物のリストを作り、すぐ持ち出せるような場所の確保を早めに検討していきたい。また、地域住民との防災訓練も計画に入れていけるよう取り組みたい。
72 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	利用者の起こり得るリスクについて、家族会で説明し、文章で送付しています。		
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルチェックを行い変化が見られたら速やかに所長に報告し、指示を仰ぎ情報を共有し、家族に連絡し対応に結びつけています。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	目的や副作用・用法や容量については、薬の説明をよく読み、振り分けし、理解しています。また、服用による症状の変化の確認にも努めています。かかりつけ医師と連携を取れているため、分からない事や不信に思った事などはその都度聴く事が出来る体制が出来ています。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	献立は野菜類を多くし、水分補給も声掛けし多めに取っていただき、お手伝いや散歩などで身体を動かす働きかけに努めています。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	就寝前は、義歯を外し、うがいをし義歯の洗浄剤につけています。食後はお茶を飲んでいただき口腔内の残渣が残らないようにしています。お茶を飲む事が出来ない利用者には、歯ブラシを使い毎食後口腔内を掃除し清潔保持に努めています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー制限のある利用者には医師の指示を受け実践しています。大きさや硬さを考えて調理しています。ミキサー食の方もいるので単品毎ミキサーにかけ、最初はスプーンでその後はらくらくゴックンという容器で食べていただいています。介助を要する方に対しては、必ず箸を持っていただき食べる雰囲気を作っています。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザの予防接種は家族の承諾を頂実施しています。感染症はマニュアルを作成したり、県からの感染症情報を利用し全員で理解し対応しています。食事前はアルコール消毒をしていただく事を日課にしています。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	夏季期間は生ものの使用を避け、良く火を通してあります。調理用具は使用後良く洗浄しハイターで消毒しています。身体状態のおもわしくない方に対しては、煮沸消毒し感染防止に努めています。食材の納品時は必ずチェックし新鮮な材料を確保しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前には草花を植えたり、周りに畑を作り季節事の野菜を作っています。また、玄関付近にはベンチを置き誰でもが座って話ができるような工夫もしています。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や廊下には、利用者の写真や行事などの写真・家族との写真を飾ったり、利用者の作品を飾ったりしています。玄関や食堂には季節の花を職員の家から持ってきて飾ったり、コンビにから二ヶ月に一回花束が届くので飾り、季節感を取り入れています。畑には季節事の作物を作り、利用者と一緒に収穫の喜びを満喫しています。	○	食堂に朝すす 日が差しまぶしくて目を細めている利用者もいます。カーテンなどの利用を検討していきたいとおもっています。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	茶の間でコタツに入り昼寝をしたり、廊下の隅に長いすを置き、隠れた談笑の場となっているようです。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人と家族で相談し、本人が使い慣れた物や好みの物を活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしています。利用者の中には仏壇も持ってきていて、毎麻ご飯とお茶をお供えして、自宅にいる時と同じようにしています。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	外気温と大きな差がないようこまめに温度調整を行っています。冬場は加湿器やバスタオルを利用し湿度を保てるようにしています。夏場は今年はあまり暑さを感じる事がなかったのが良かったのですが、クーラーがないため暑さ対策が不十分です。	○	冬場は床暖房でとても暖かく快適ですが、夏はクーラーがないので夏ばての対応に頭を悩ませています。クーラーの設置を共同スペースだけでも検討していきたいと思っています。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すりの設置があり、浴室・トイレにも手すりが設置され安全で自立した生活が送れるように工夫しています。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりの出来る事を大切にし、日々の生活の中で混乱する事の無いような支援に努めています。トイレは分かるよう大きく書き、居室には名前と写真をはって一目で分かるように工夫しています。洗濯たみなどは、利用者の名前の札を作り、職員と一緒に行う事により間違いがなく利用者ごとに渡せるように工夫しています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	天気の良い日は外のベンチで日向ぼっこをし利用者間のコミュニケーションが取れるような活用をしています。テラスには洗濯物を干しお手伝いをいただいています。畑には季節事の根菜類を作り成長や収穫の楽しみを味わっています。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
		<input checked="" type="radio"/>	②数日に1回程度
		<input type="radio"/>	③たまに
		<input type="radio"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	①大いに増えている
		<input checked="" type="radio"/>	②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
		<input type="radio"/>	④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="radio"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input checked="" type="radio"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input checked="" type="radio"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="radio"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="radio"/>	④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

今年の夏祭りは、地域密着型サービスを念頭に、地区互助会の協力で準備から後片付け、出店と一緒に実施する事が出来ました。また、地元中学生の川崎ソーランで会場を盛り上げていただけました。中学校の先生と生徒の協力で夏祭りに向けてのボランティア活動として、七夕作り、窓拭き、じゃがいも堀り、夏祭り会場設営の為に備品運び等手伝っていただき、利用者となれあいを多く持つ事が出来ました。敬老会では、利用者全員が一番良い服装で(着物の方や背広の方等)めいっばいのおしゃれをし、出席しました。服選びは職員も一緒にお手伝いし、当日は朝早くから準備に笑顔がはじけていました。季節事の行事は家族の協力を頂、春は船岡の桜を電車に乗り車窓から見学し、回転寿司での昼食を楽しみ、初夏は山形にさくらんぼ狩り、夏祭り、敬老会、ぶどう狩りでは、各自選んで食べた昼食、クリスマス会、餅つき、ひな祭り会と家族と楽しいひと時を過ごしていただいています。また、昔ながらの草もちや柏餅づくり、らっきょ漬け等自信满满作ってくださっています。今年度より家族会を立ち上げ、4月と10月に実施する事が出来ました。普段疑問に思っている事や不安など家族・職員と共有する事が出来ました。その中で一部の家族よりふれあいは自分の家族の様に思っているとの言葉を聴かせていただきました。10月の家族会には川崎町地域包括支援センターの職員にも出席していただきました。多くの職員にも参加していただき、活発な意見交換が出来ました。家族会の報告は推進会議の席でも報告しています。毎月の請求にはケース記録も一緒に送り状況の把握に努めていただいています。記録により「おばあちゃんの顔が見える」とか「母親の大事な記録です。大切にしています」といった言葉も聴かれています。広報誌も毎月送り情報の共有をお願いしています。また、今年は畑にも力を入れ、ヘルパーステーションの職員に協力いただきながら、季節事に植え替え収穫を楽しんでいます。苗は家族や職員が提供して下さっています。